

## 全国における収集方式の比較

区分	特徴	主な採用自治体	方式の概要	メリット	デメリット
① 全戸個別収集方式	都市型・高密度地域に適合	福岡市, 名古屋市, 横浜市 など	各世帯を巡回して玄関先で回収	高齢者に優しい, 全戸対応	費用・人員負担が大きい
② 拠点収集方式 (現行)	全国標準方式	呉市, 北九州市, 倉敷市, 熊本市 など	町内単位の集積所で住民が排出	効率的・低コスト	高齢者には負担
③ 部分併用方式	地域単位で選択	京都市, 浜松市, 岐阜市, 札幌市など	拠点収集+高齢者世帯のみ戸別	柔軟性が高い	管理複雑
④ 特例的個別収集 (福祉連携型)	福祉との連携型	呉市 (すこやかサポート), 岐阜市, 倉敷市 (真備地区) など	要支援世帯を登録制で回収	安否確認と連動	対象範囲の線引き難
⑤ 住民協働型助け合い方式	自治会など住民組織等で実施	川崎市麻生区, 浜松市北区 など	住民が助け合いで搬出支援	近隣の助け合いの延長で実施できる	継続担保が課題